

国際シンポジウム参加報告

「21世紀、グローバル時代の外国語教育 言語政策、教授法、教室現場の諸問題
—『複言語主義』のヨーロッパと日本の外国語教育」

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 江澤 照美

2011年11月25日(金)-27日(日)、東京のドイツ文化会館ホールにて Goethe-Institut との共催で開催されたこのシンポジウムは『ヨーロッパ共通参照枠』日本語版の訳・编者として知られる吉島茂氏を研究代表者とする科研プロジェクトの一環である。報告者は国内の外国語教育関係者やヨーロッパ在住の専門家および教育現場担当者など多彩な顔ぶれで、初日は「言語政策と外国語教育」、二日目は「教授法／理論上の考察」、最終日は「現場での諸課題」を共通テーマとして各報告や討論がおこなわれた。今回主たる考察の対象となった言語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、そして外国語としての日本語である。

「グローバル」と「ローカル」の混成語である「グローカル」がタイトルに掲げられたこのシンポジウムでは、グローバルなレベルでの教育(特に英語)が取り上げられる一方で、各地域独自の言語教育事情も考察の対象となった。言語横断的かつ活発な議論がしばしば展開されたこともあり、本シンポジウムに参加した筆者は複言語主義を標榜するヨーロッパの言語教育の現状、近年の日本国内での外国語教育が抱える問題、今後の展望などについて多くの有益な示唆を得た。

シンポジウムの詳細については2012年2月29日(水)に開催する第11回言語教育研究会にて口頭報告をおこなう予定である。